

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	福永家住宅・塩田保存活用事業		担当部署	教育委員会 生涯学習人権課	
総合計画体系			根拠法令計画など	文化財保護法	
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり	事業期間	開始	昭和 <input type="text" value="51"/> 年度
政策(中項目)	2	伝えたい 魅力あふれるまち なんと			
(小項目)		文化財			
施策	3	文化財の保護と活用		終期	<input type="text" value="未定"/>
基本事業	2	文化財の保護と活用			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何を)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 国指定重要文化財「福永家住宅」						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	全国で唯一、近代化以前の製塩業の姿を残す「福永家住宅」について、必要な保存対策・環境整備を進めながら、公有化した建物・塩田の公開活用を行う。これにより、文化財を地域学習の材料としてだけでなく、地域活動及び観光資源として活用することを目指す。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	●保存活用検討委員会を開催し、保存活用計画策定のための検討を進める。 ●地域住民やボランティアを募り小規模な文化財修理と公開事業を実施する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		福永家住宅の保存整備	70	80	80	90	90	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①住宅南側水路の排水対策工事として、排水機場の設置工事を実施した。 ②地域住民やボランティア団体と協働し、公開事業を実施した。 ③保存活用検討委員会を開催して、保存活用計画策定に向けた作業内容及びスケジュールについて協議した。						
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
活動指標	実施した事業の活動量を示す指標	指標名	25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
		1 福永家住宅の公開(テレビ取材含)	8	15	20	20	20	件
成果指標	対象にどのような効果があったか示す指標	2 福永家住宅の市有化率	95	95	100	100	100	%
		福永家住宅の保存整備	70	80	—	—	—	%
		目標達成率(実績/目標)		100.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり				

(千円)

財源内訳	平成26年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	0	53,600	10,000	3,618	67,218
		全体予算額				53,600	10,000	3,726	67,326
		決算額		58,470				819	59,289
		繰越額							0
		人件費		正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)	総人件費		総事業費	
		0.5	0.0	3,439		62,728			

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	4,349	59,289	6,494	1,553	1,553
	うち一般財源	1,049	819	6,494	1,553	1,553
	人件費	4,562	3,439	4,815	4,815	4,815
	総事業費	8,911	62,728	11,309	6,368	6,368

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		公開事業などを通して、市民に鳴門の塩づくりの歴史を伝え、郷土愛を醸成する効果があった。
	効率性	B:概ね効率的だった		必要な事業については、予算を投入し、保存活用のための環境改善を図ることができた。
②成果に対する評価	指標名	福永家住宅の保存整備		指定時から保存対策上の課題となっていた排水施設を設置することができた。また、文化財の公開事業も実施しながら、具体的な保存活用に向けた計画策定についても検討を進めることができた。
	目標	80	%	
	実績	80	%	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		文化財の効果的な保存と活用に向けて、必要な事業を実施することができた。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	経費を伴う保存活用事業の実施は、「保存活用計画」を基本にして進められるため、建造物や塩田をどのように修理・保存し、どのように管理・活用していくのかについて、実現性の高い目標設定を含め、計画の中に明確に示していく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	①保存活用計画の策定に向けた調査事業および検討委員会の開催 ②地域住民やボランティア団体などと協働した公開事業の実施 ③緊急性の高い修繕事業の実施			
	H28年度	①保存活用計画の策定に向けた検討委員会の開催 ②地域住民やボランティア団体などと協働した公開事業の実施 ③緊急性の高い修繕事業の実施			